

Luncheon Linguistics, 11 May 2022

2022（令和4）年5月11日

「チェコ語における所有の与格の統語的性質」

発表者：松山芳瑛（東京外国語大学大学院博士前期課程）

チェコ語には、所有者が所有対象から独立した与格項（所有の与格）として表されるという現象がある。本研究では、チェコ語において所有の与格と共起する所有対象がとる格の傾向と、付随する前置詞の傾向の2点に着目したコーパス調査を行った。それにより、チェコ語における所有対象の統語的性質をより詳細に記述し、類型的傾向及び先行研究の記述の反例を提示した。

本研究では、チェコ語国立コーパス（Český národní korpus）を用いて所有の与格の例を抽出し、適宜母語話者への質問調査を併用しながら分析を行った。その結果、次のことを示した。①チェコ語における所有対象は名詞句よりも前置詞句として出現しやすい傾向にあること、また {生格前置詞句>対格名詞句>前置格前置詞句>主格名詞句>対格前置詞句>造格前置詞句>造格名詞句>与格前置詞句} の順に出現しやすいことを示唆した。②合計26の前置詞が所有対象と共起し得ることを明らかにした。③先行研究では成立し得ないとされてきたにも関わらず、他動詞主語として機能する所有対象の例を見出した。